

2025年万博を大阪・関西へ！



シンポジウム
関西のインフラ強化を進めるために
ー日本のリーディングエリアとするためにー

“Look West”

2018年5月15日
公益社団法人 関西経済連合会
特別顧問 沖原 隆宗

○ここ数年の持論

「閉塞した20年を脱却し、日本の新たな成長の為には、
関西が大きく発展し、日本の新しい成長をけん引しなければ」

○「その為には、関西に色々な人が集まり、消費をし、生産をし、
そして、人と物がぎょうさん入り、出ていく仕組み作りが不可欠」

○「ええ商いをしたかったら、
これからは大きな港のある所やないとあかん
人と物が外からぎょうさん入って来て、
人と物が外へぎょうさん出て行ける所やないとあかん」

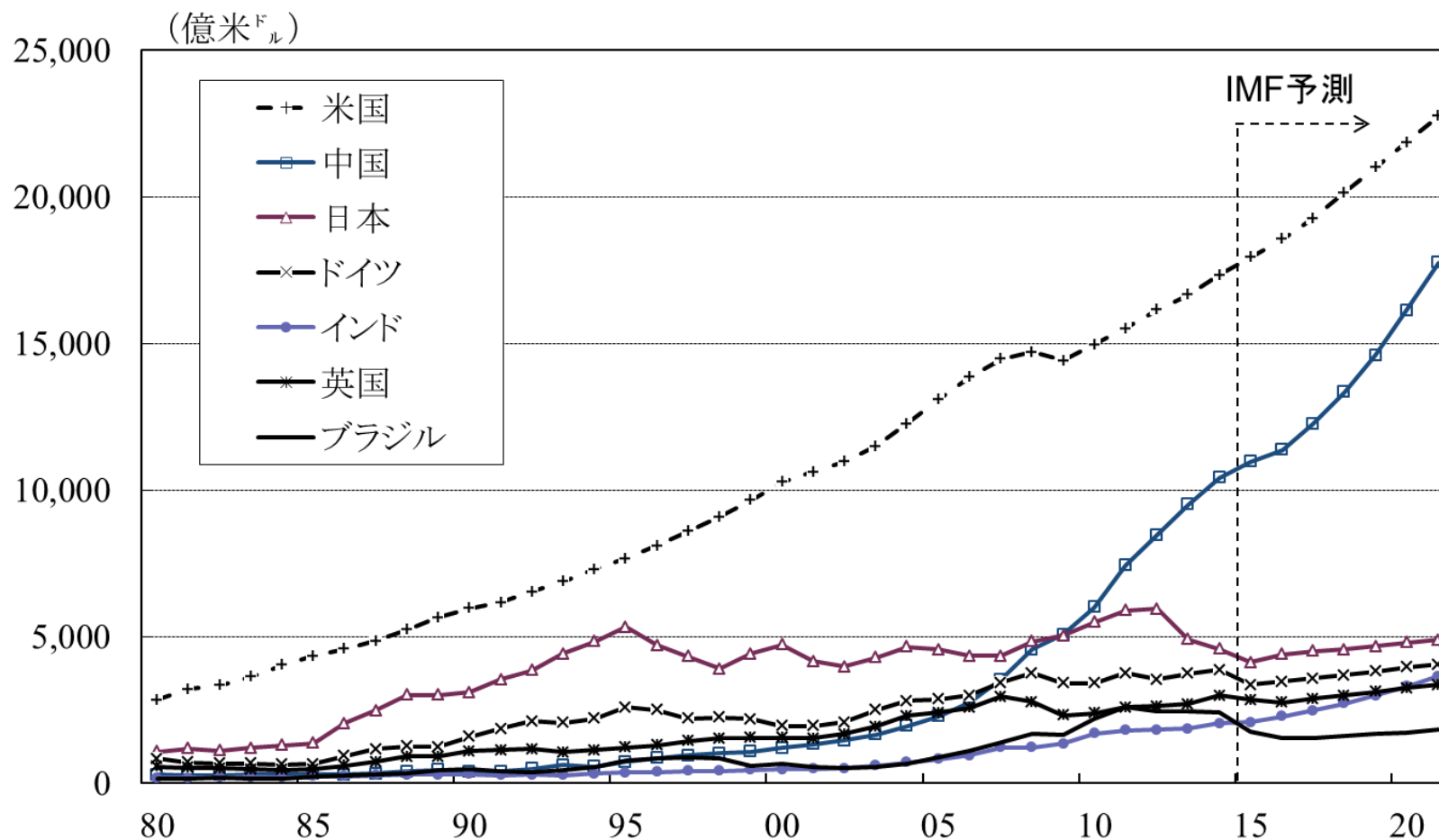
日本経済新聞 連載小説『琥珀の夢』(伊集院 静 作)の一節

各国の経済規模(名目GDP)の長期推移

○1995年頃から日本だけが低迷した閉塞した時代に

○その間、2010年に中国が日本を逆転、2020年頃にはアメリカと中国の2強体制へ

主要国の経済規模の推移



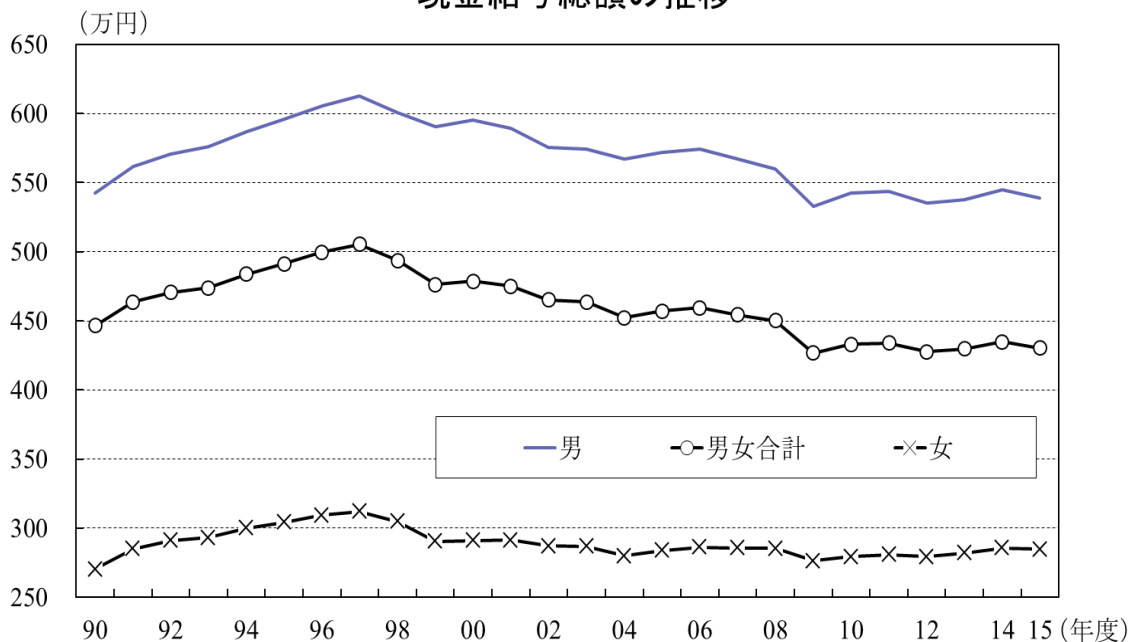
(出典) IMF統計より三菱UFJ銀行が作成

賃金水準と消費支出の推移

○ 1人当たりの現金給与総額は1997年度をピークに最近まで約20年間減少傾向が続く

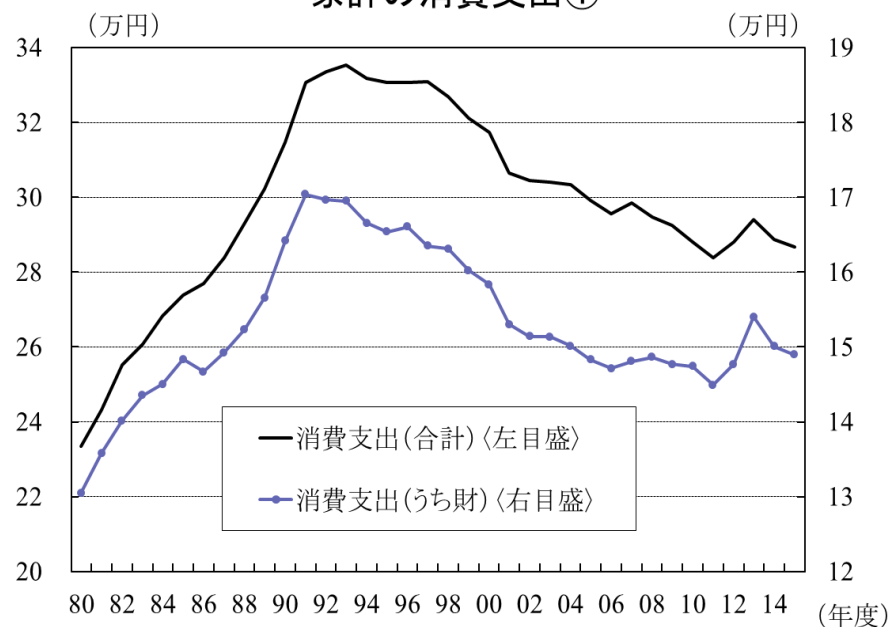
○ 家計における消費支出も1995年前後をピークに減少基調

現金給与総額の推移



(注) 事業所規模30人以上の調査産業計
(出典) 厚生労働省統計より三菱UFJ銀行が作成

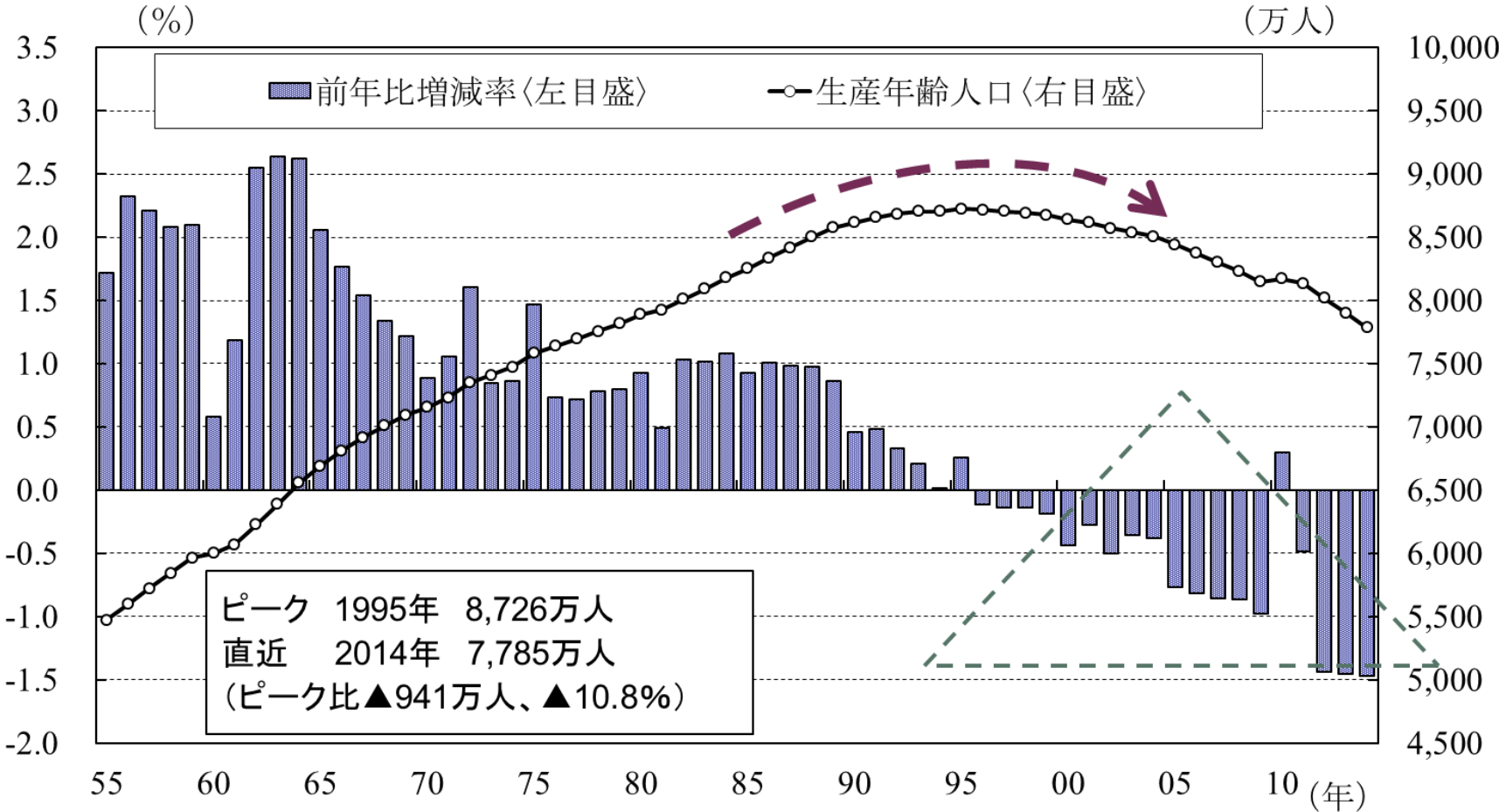
家計の消費支出①



(注) 農林漁業を除く
(出典) 総務省統計より三菱UFJ銀行が作成

○わが国の生産年齢人口は1995年をピークに減少局面入り

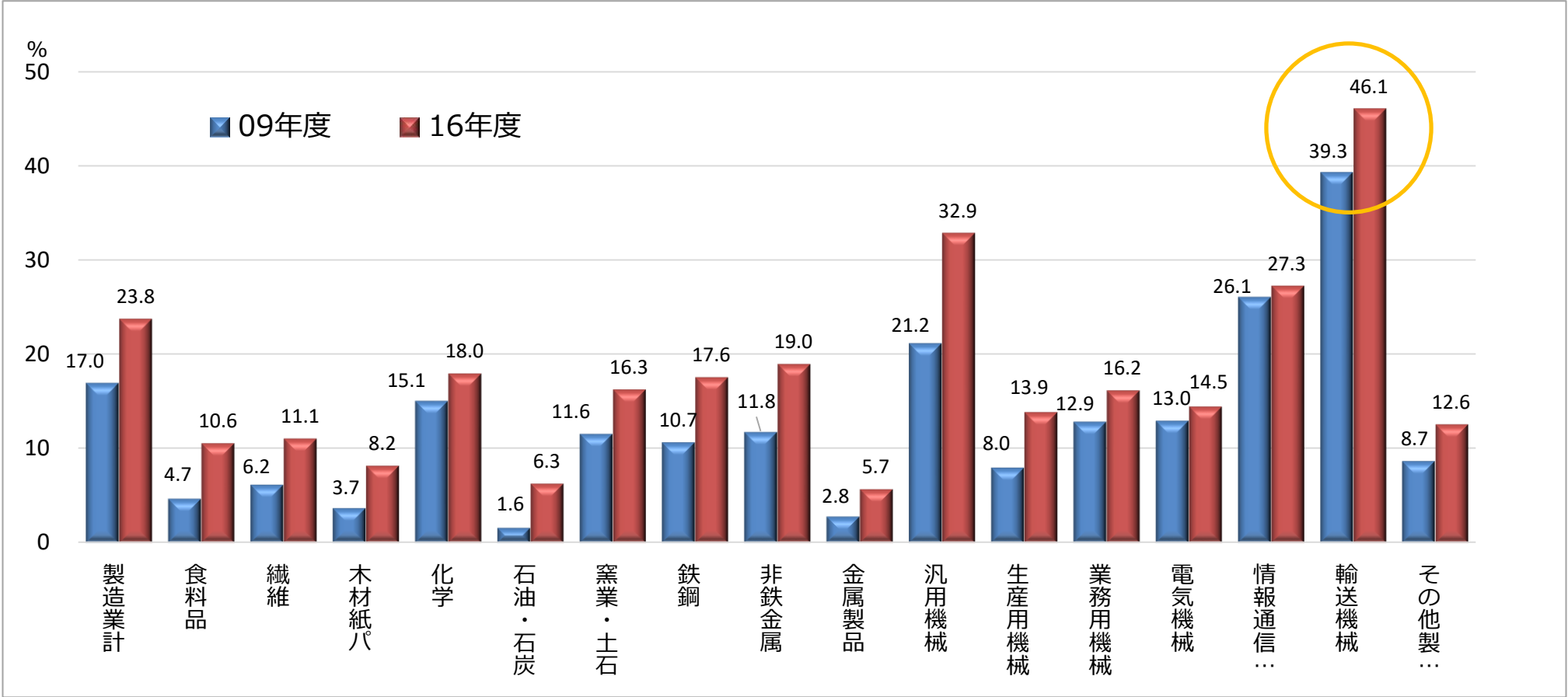
生産年齢(15～64歳)人口の推移



(出所) 総務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室が作成

- 国内製造業の海外生産比率はここ数年で上昇しており、空洞化が進行
- 特に輸送機械（主に自動車製造業等）の海外生産比率は5割に迫る状況

業種別海外生産比率

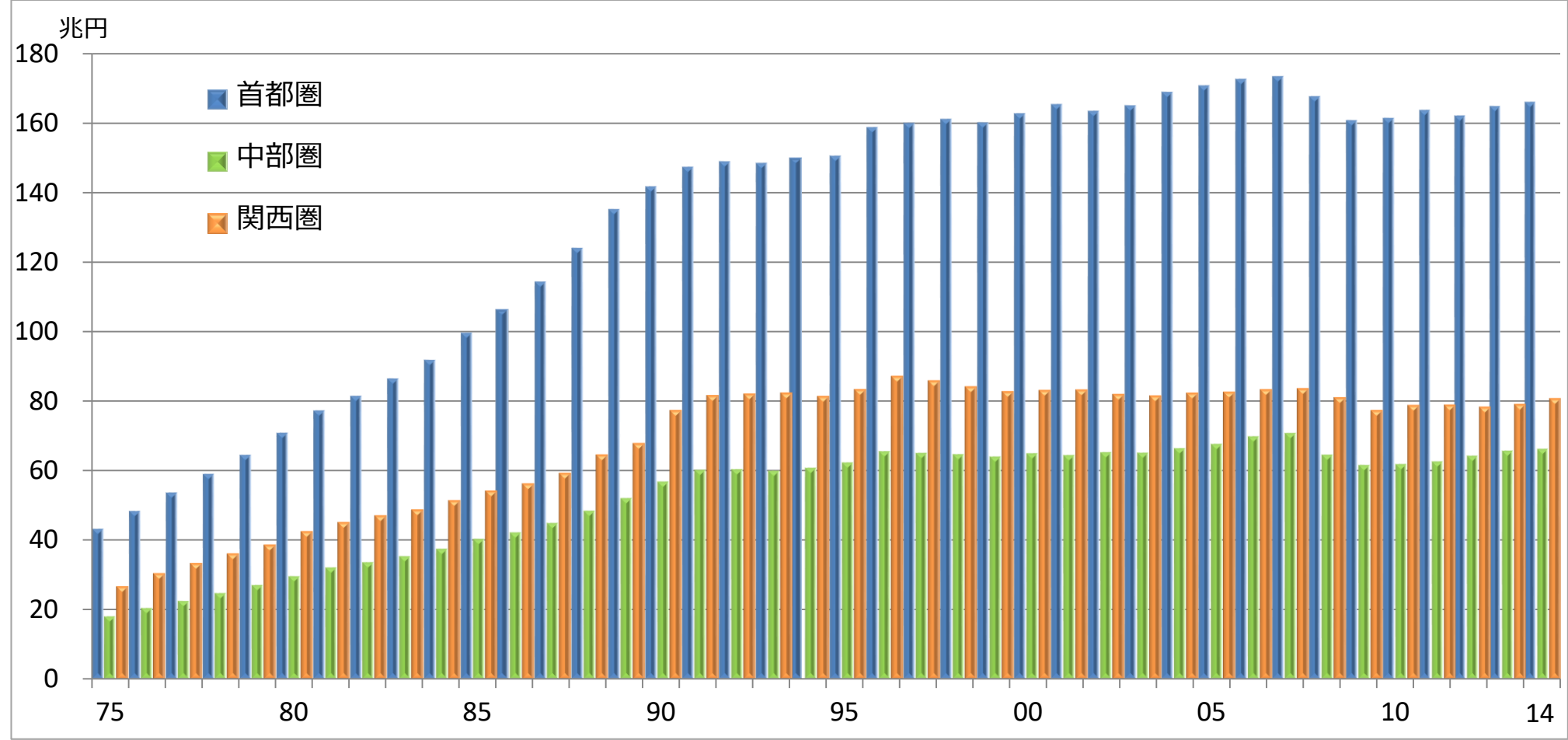


(注1) 国内全法人ベースの海外生産比率＝現地法人(製造業)売上高/(現地法人(製造業)売上高＋国内法人(製造業)売上高)×100.0
海外進出企業ベースの海外生産比率＝現地法人(製造業)売上高/(現地法人(製造業)売上高＋本社企業(製造業)売上高)×100.0
(出典) 経済産業省『第47回 海外事業活動基本調査概要』より関経連が作成

三大都市圏の名目GDP(GRP)推移

○首都圏も'95～'96年以降は成長鈍化。日本経済全体の牽引車が不在に

首都圏・中部圏・関西圏の域内総生産



(注) 首都圏 : 1都3県 (埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)
中部圏 : 4県 (静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)
関西圏 : 2府4県 (滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県)
(出典) 内閣府『県民経済計算年報』より関経連が作成

成長の3要素

- ① 交流人口の増加、集積
- ② 旺盛な需要のある市場を取り込む
- ③ 新たな内需型産業の創出・育成

⇒ Look West

2つの視点

中期計画イメージ

1

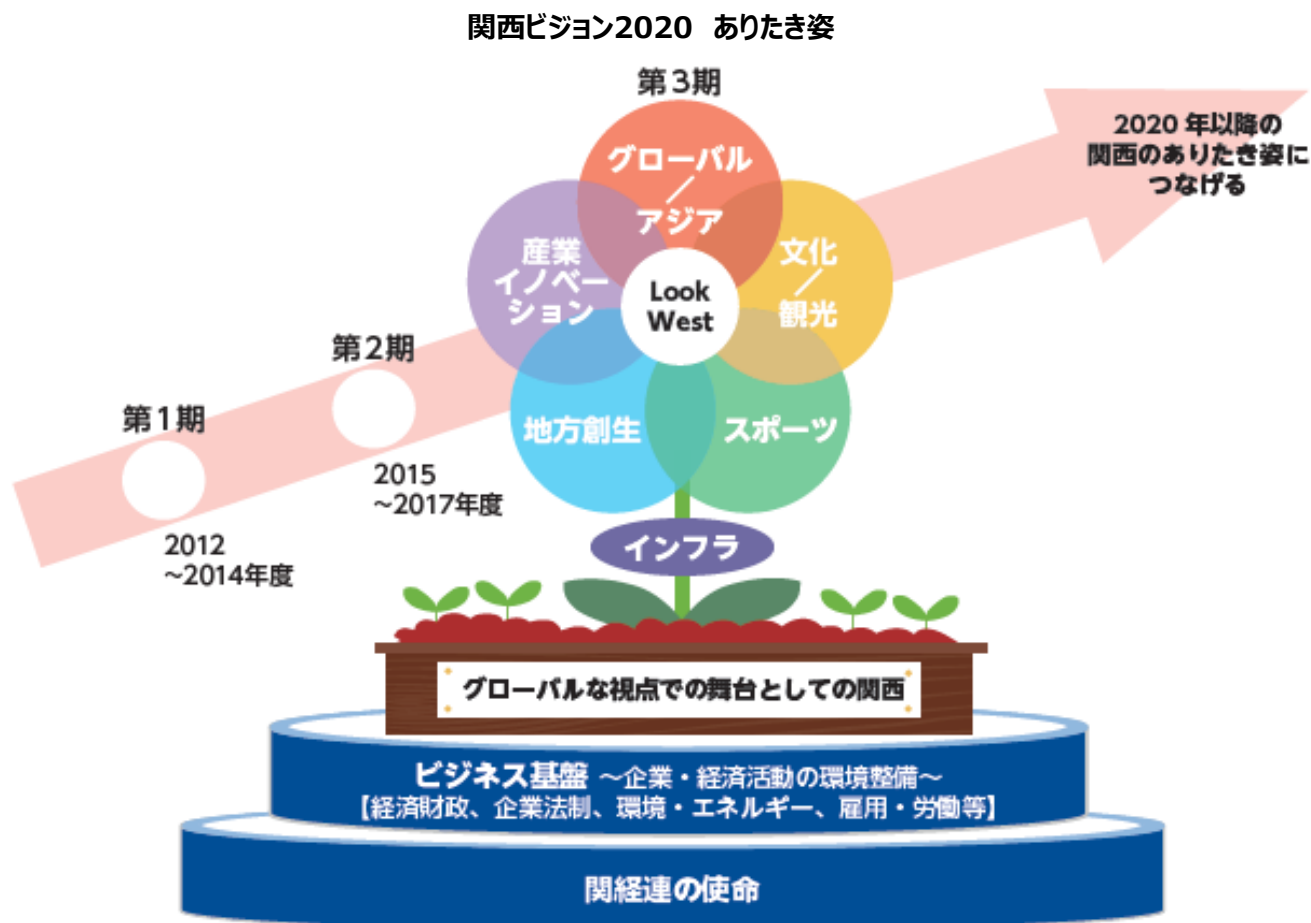
Look West

- ・ 関西から見て東にある東京ではなく、西にあるアジアに目を向ける。
- ・ 「東京一極集中を是正すべき」と言うだけではなく、関西がどのように発展していくのかを自分たちで考え、実行していく。

2

グローバルな視点での舞台としての関西

関西にいる企業・人材が活躍するのはもちろんのこと、関西の外から関西に来てもらって、関西を舞台として活動をしてもらう。日本のほかの地域からアジアから、世界から企業・人が関西に来て、関西を舞台に活躍する。そのための条件を整えていく。



※関西がグローバルに存在感を高めていくためにも、世界共通の目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、各事業を通じて貢献していくという意識のもと取り組んでいく。

※関西ビジョン2020の後の次の中長期ビジョン（Beyond 2020）を第3期中期計画の期中に策定する。

Look West

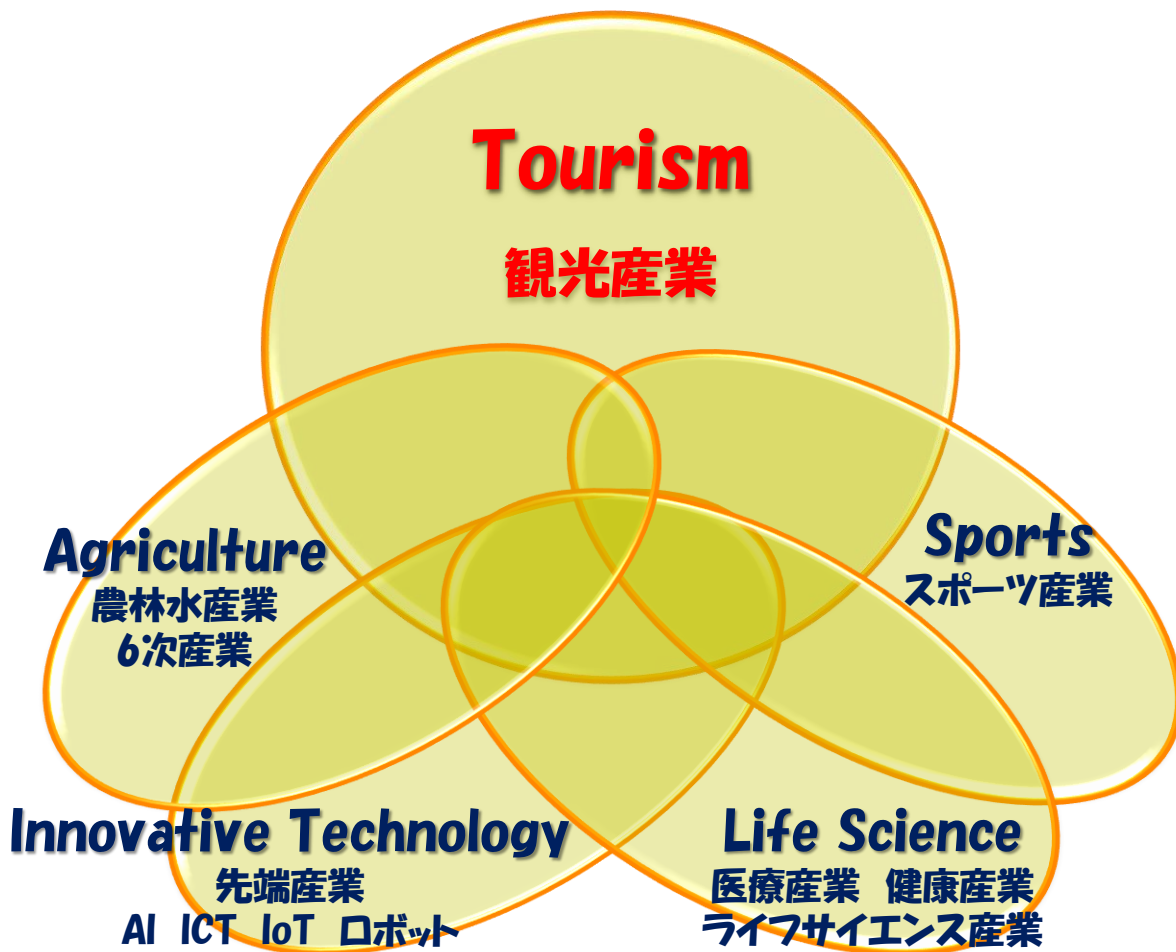
アジアを大いに意識した Golden Five Circle の推進

～「観光」基軸の新5大内需型産業～

○内需型産業の新たな強化策のイメージとしての、観光産業を中心とした集合図“Golden Five Circle”

○各産業が有機的に結びつくことにより、新たなシナジー効果が発揮され、国内雇用と消費を活発化

Golden Five Circle



シナジー効果の事例

- ・観光産業×先端産業
＝インダストリアルツアー、AI通訳
- ・観光産業×ライフサイエンス産業
＝医療ツーリズム
- ・観光産業×スポーツ産業
＝スポーツ観戦、参加型スポーツ(マラソン等)
- ・観光産業×農林水産業
＝ファームステイ、エコツアー
- ・先端産業×ライフサイエンス産業
＝創薬、ゲノム、iPS細胞、ロボットスーツ
- ・先端産業×スポーツ産業
＝バーチャル観戦
- ・先端産業×農林水産業
＝天候予測、生産管理や収穫等の自動化
- ・ライフサイエンス産業×スポーツ産業
＝スポーツ医学、健康科学
- ・ライフサイエンス産業×農林水産業
＝バイオ、品種改良
- ・スポーツ産業×農林水産業
＝オフシーズンに農林水産業に従事
選手による生産物を競技場で販売

観光産業の可能性

○観光業は基幹産業のひとつであり、また、その波及効果は極めて大きい

G7における観光産業がGDPに占める割合と雇用(2014年)

	GDPへの寄与				雇用への影響			
	直接効果 (10億米ドル)		直接効果+間接効果 (10億米ドル)		直接効果 (万人)		直接効果+間接効果 (万人)	
世界全体	2,365	3.1%	7,581	9.8%	10,541	3.6%	27,685	9.4%
米国	458	2.6% g y	1,403	8.1%	530	3.6%	1,365	9.3%
フランス	103	3.6%	255	9.0%	113	4.1%	271	9.9%
イタリア	88	4.1%	217	10.1%	108	4.8%	255	11.4%
英国	102	3.4%	310	10.4%	189	5.7%	423	12.7%
ドイツ	145	3.7%	343	8.9%	284	6.7%	498	11.7%
日本	112	2.4%	343	7.5%	115	1.8%	444	7.0%
カナダ	21	1.2%	80	4.5%	46	2.6%	108	6.0%

(注1) 直接効果とは観光客の直接の消費によって生まれる付加価値(売上－中間投入＝粗利益)であり、間接効果は原材料の仕入れ等によって生じる消費による効果及び従業員の給与によって生じる消費による効果、民間投資、政府支出としている。

(注2) WTTC (World Travel & Tourism Council, 世界ツーリズム協議会)、UN(国連)資料に基づいて観光庁作成

(出典) 観光庁『2016年版 観光白書』より関経連が作成

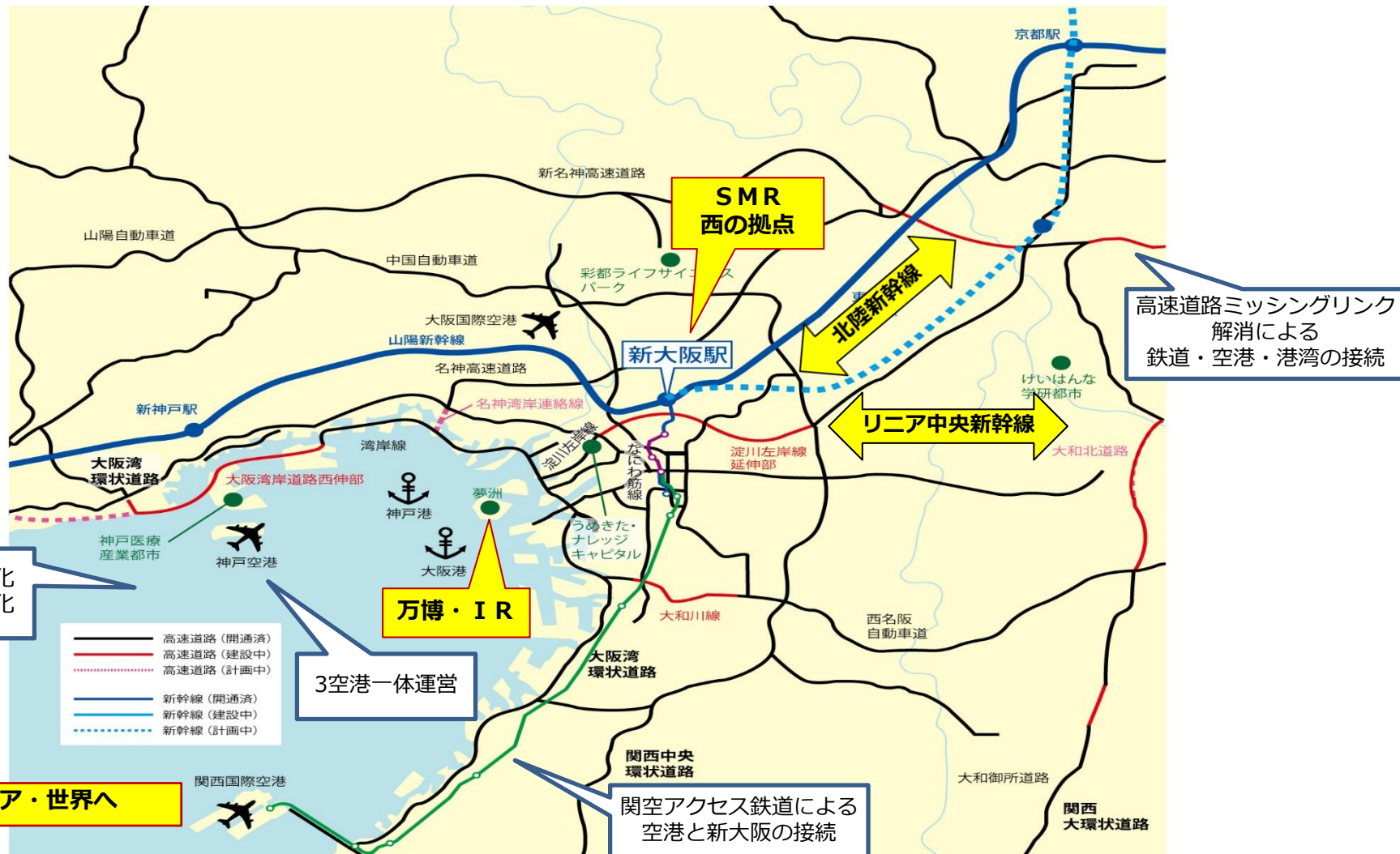
3大インフラ

- ① **ハードインフラ**
陸・海・空交通インフラ＋通信インフラ
- ② **産業インフラ**
MICE、スポーツ競技場、研究施設など
- ③ **ソフトインフラ(サービス型・企画型)**
アトラクション、エンターテイメント、こと消費

○陸・海・空の交通物流インフラの一体整備が不可欠

リニア、北陸新幹線、高速道路ミッシングリンク、3空港一体運営（関空アクセス鉄道）、阪神港 等

○域内ネットワークの充実により「対流」が促進されイノベーションを生む



○KANSAI Free Wi-Fi (Official) 等のさらなる充実、有効活用

○誰もがストレスなくオープンにアクセスできる環境が、交流促進とイノベーション創出を生む

無料

Wi-Fi接続も
エリア検索も

手軽

手軽ワンタップで
簡単接続

**24,000[※]
SPOT**

優良エリアを
カバー



関西エリアの
フリーWi-Fiスポットが
簡単接続！

関西広域の観光
情報が満載！

ワンタッチで
Wi-Fi接続！

知的交流と文化的躍動の拠点となる「産業インフラ」

- 国際会議場（MICE）や研究開発・イノベーション創出拠点など
- スポーツ競技場・劇場など文化施設、IR・エンターテインメント施設など



けいはんなプラザ
出典：けいはんなHP

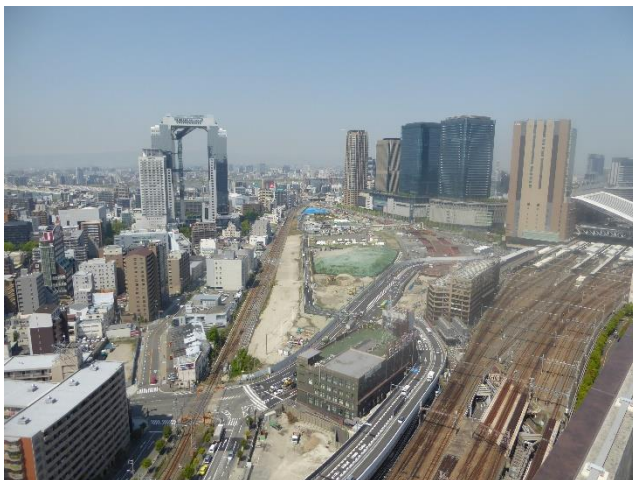
KNOWLEDGE CAPITAL



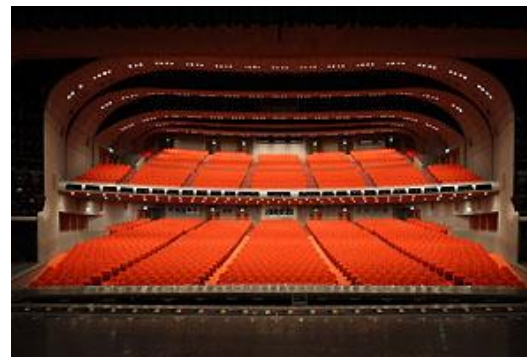
ナレッジキャピタル
出典：ナレッジキャピタルHP



MICEイメージ
出典：関西経済同友会



うめきた 2期
出典：UR都市機構



宝塚大劇場
出典：宝塚歌劇団



Panasonic Stadium Suita
出典：GAMBA OSAKA HP

3大インフラ

- ① ハードインフラ
陸・海・空交通インフラ＋通信インフラ
- ② 産業インフラ
MICE、スポーツ競技場、研究施設など
- ③ ソフトインフラ(サービス型・企画型)
アトラクション、エンターテイメント、こと消費

○世界のスポーツビジネス関連市場は先進国・新興国の双方で年々増加

世界のスポーツビジネス関連市場規模



1.2倍



1.5倍



ご参考

韓国GDP(2012年) ... 113兆円
日本の国家予算(2012年度) ... 90兆円
オーストラリアGDP(2012年) ... 151兆円

ご参考

国内主要自動車メーカー売上高(2012年度) ... 55兆円
航空機産業市場規模(2009年) ... 50兆円
インドネシアGDP(2012年) ... 86兆円

(出典) A.T.カーニー、IMF、国内主要自動車メーカー各社IR資料、経済産業省、財務省のデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成した資料を引用

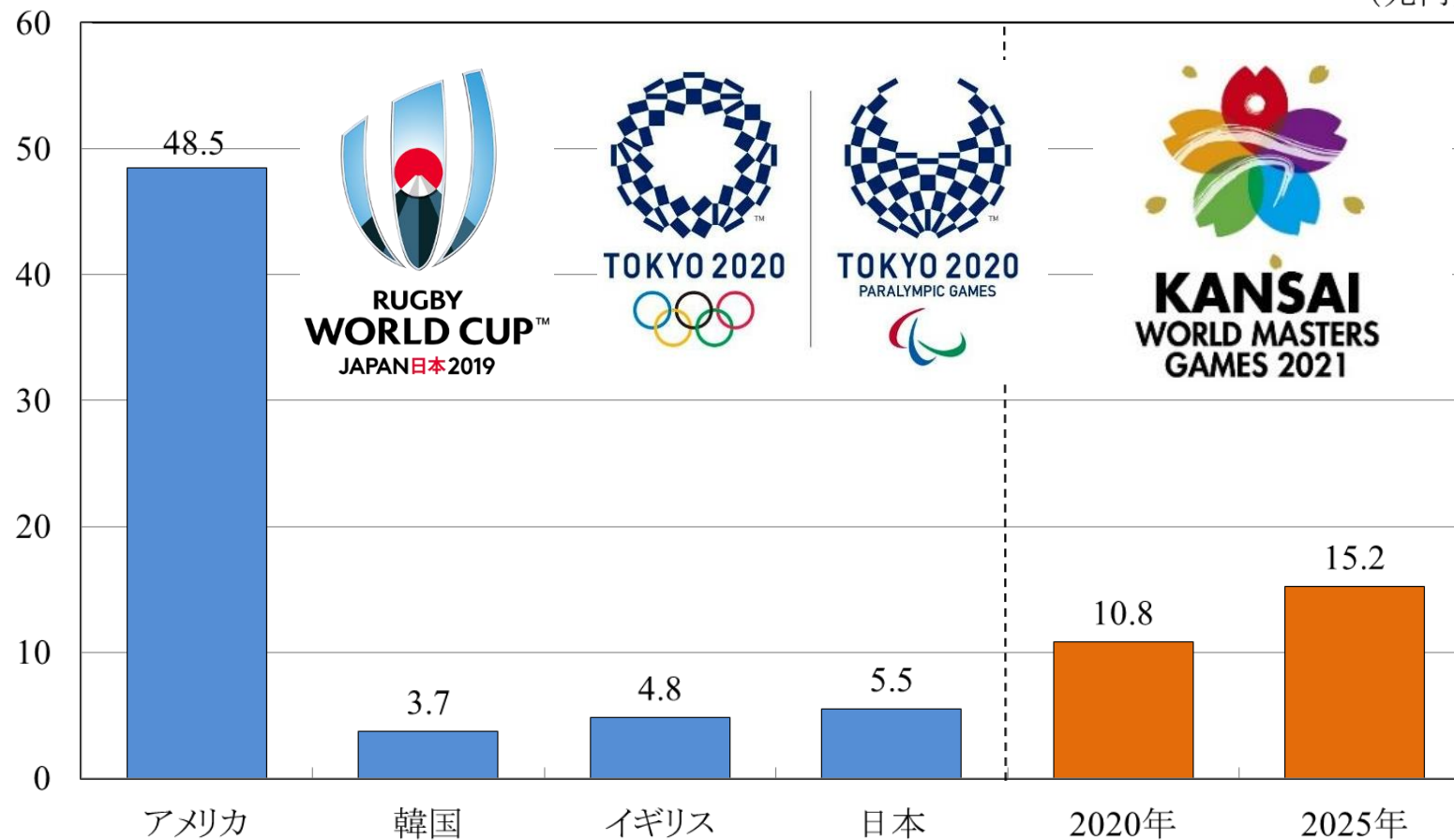
「ソフトインフラ」としてのスポーツビジネス②

○スポーツ庁はスポーツ関連市場規模を、2020年に10兆円、2025年までに現状の約3倍の15兆円に増やす目標

○ゴールデンスポーツイヤーズは、観光とスポーツの融合の足掛かりとなる絶好のチャンス

スポーツ産業の市場規模と拡大の見込み

(兆円)

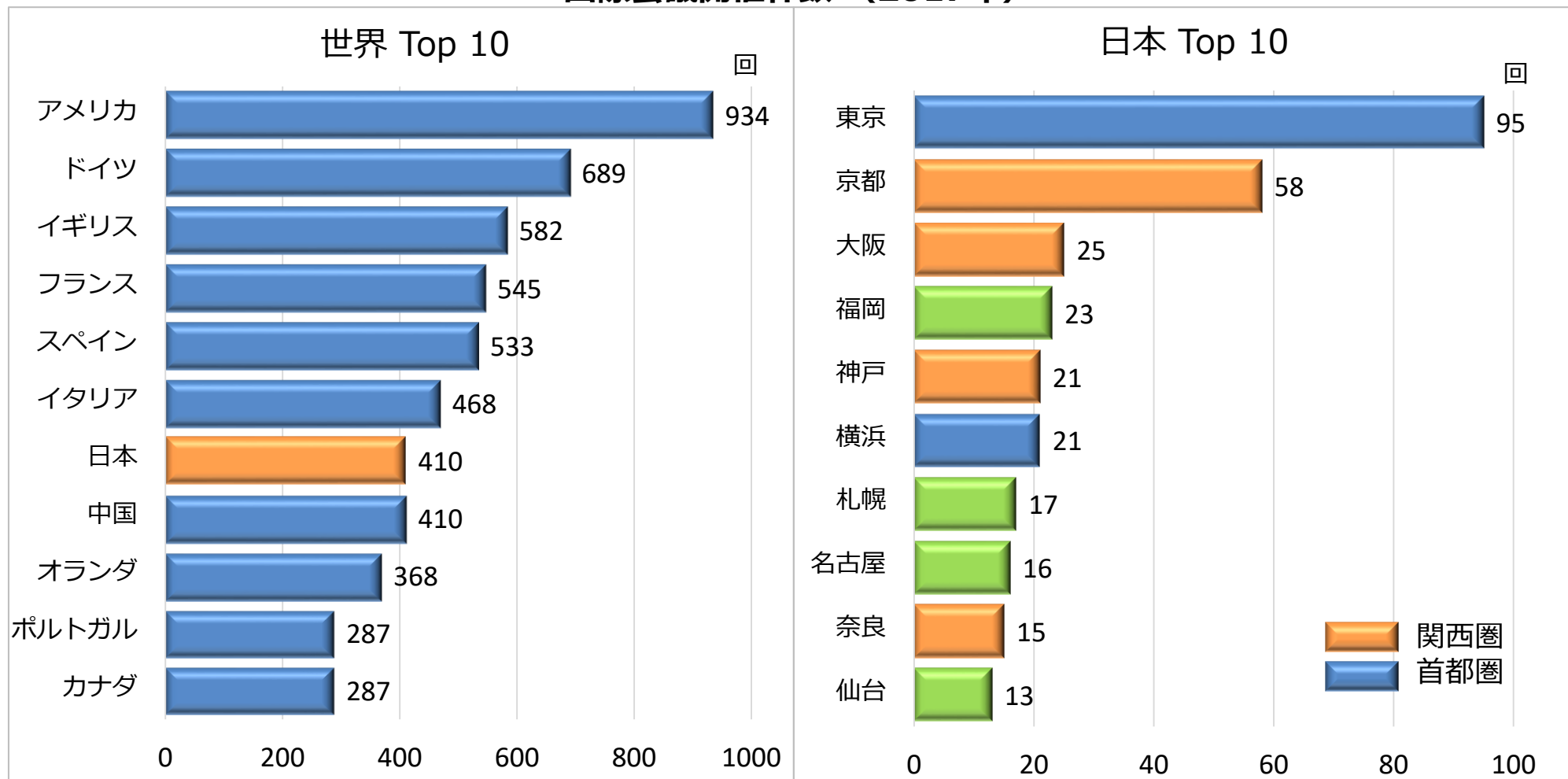


(注) 日本、イギリスは2012年、アメリカ、韓国は2013年

(出典) スポーツ庁、日本政策投資銀行等より三菱UFJ銀行が作成

○日本で開催された国際会議が過去最高の410件（前年比+55件）を記録するも、大阪以下の各都市は未だ少ない。更なる注力要

国際会議開催件数（2017年）



（出典） ICCA（国際会議協会）の統計より関経連が作成

○ソフトインフラとして農林水産業や歴史・文化・芸術コンテンツは可能性を秘めている

○ソフトインフラは「おもてなしの心」であり、「こと消費」の拡大の源泉

関西の文化歴史コンテンツ

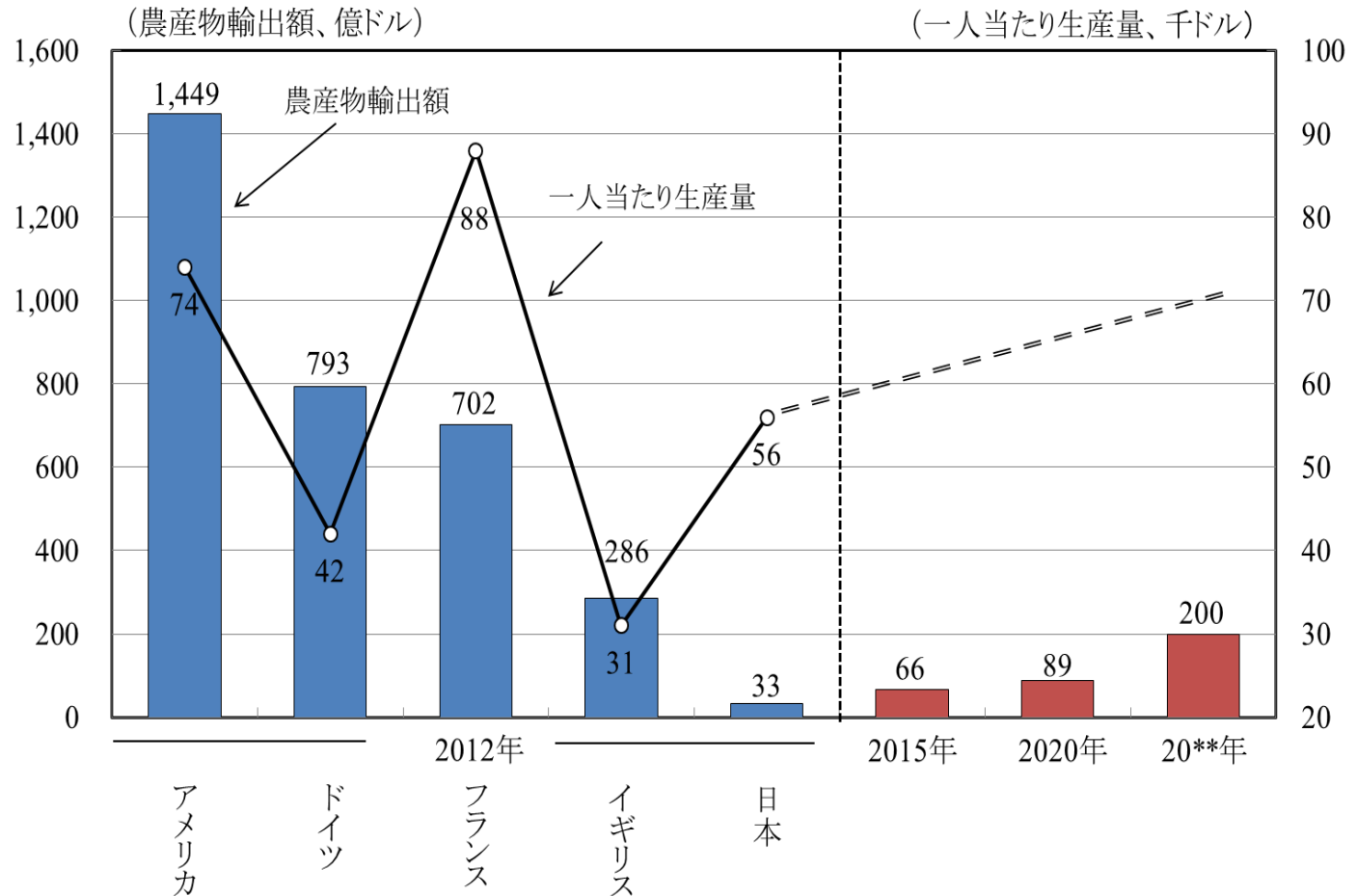
世界文化遺産 5/17件

国宝 608/1,110件



(出典) 件数：文化庁
写真：姫路城/ひょうごツーリズム協会
舞妓：

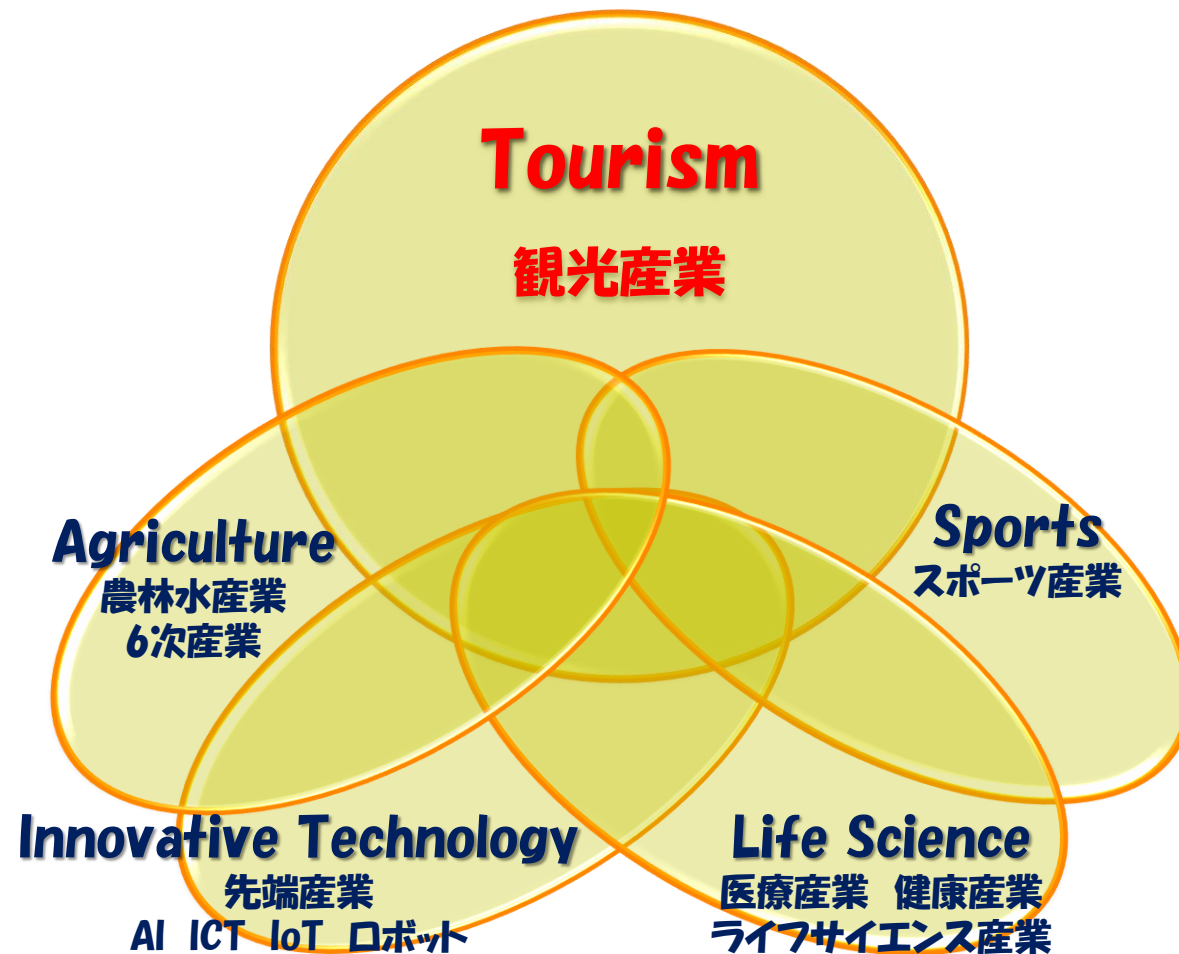
主要国における農産物の輸出額と1人当たりの生産量



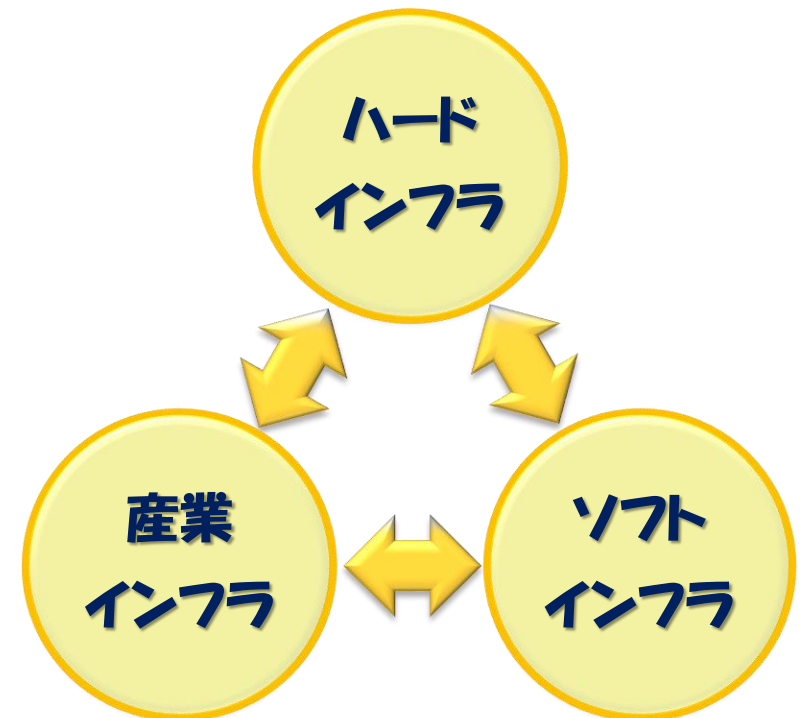
(出典) UN、FAO、ILO、農林水産省、各国統計資料等より三菱UFJ銀行が作成

○ Golden Five Circle とそれを支える「3大インフラ」の有機적かつ一体的な整備

Golden Five Circle



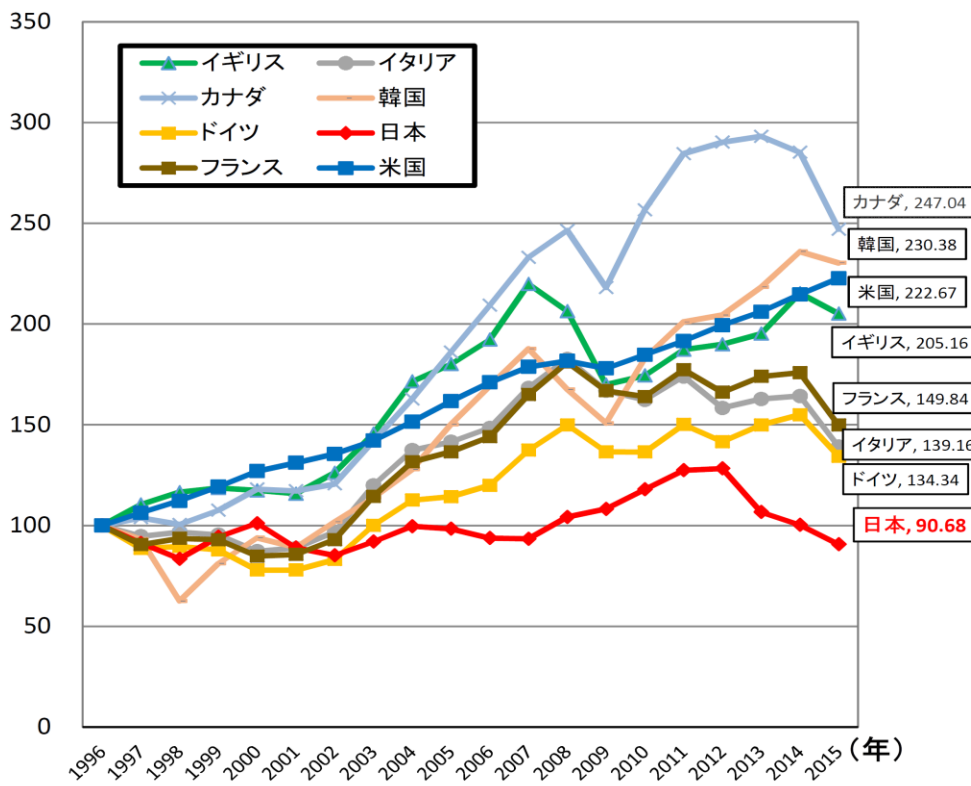
3大インフラ



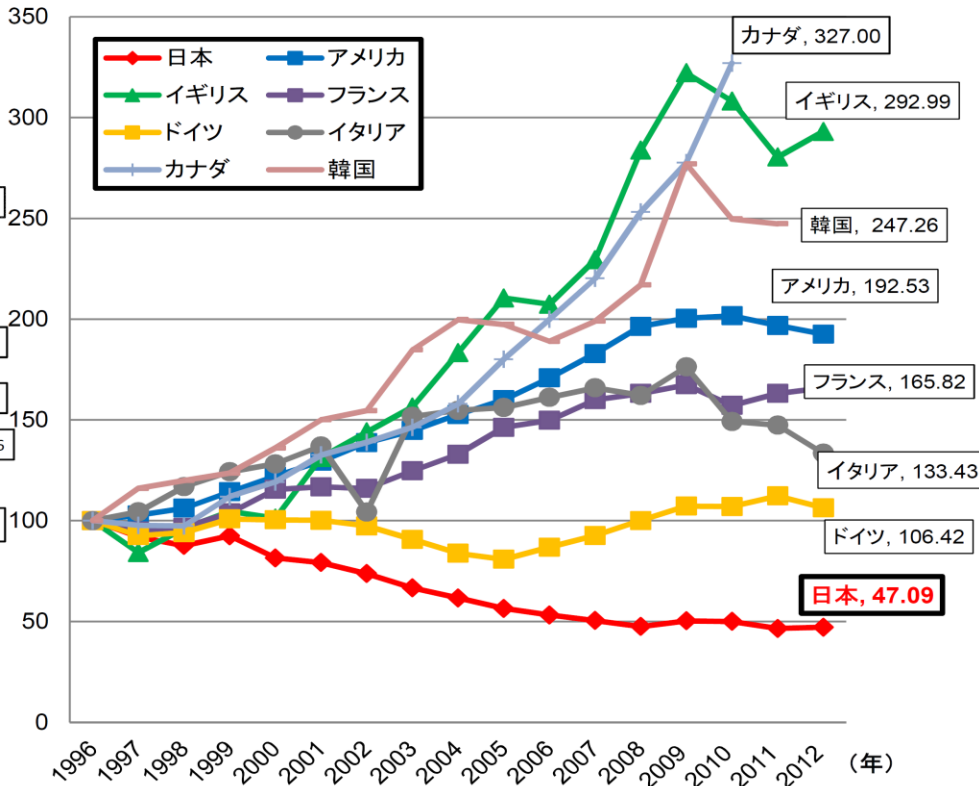
〇〇ECD主要国の名目GDPがプラス成長する一方、わが国はマイナス成長
〇〇ECD主要国における一般政府公的固定資本形成*は増加傾向だが、わが国は15年間で半減

* 国と地方公共団体が行う社会資本の新設・改良等。公営企業が行うものは含まれない。また、用地費、補償費は含まれない。

名目GDPの推移(平成8年を100とした割合)



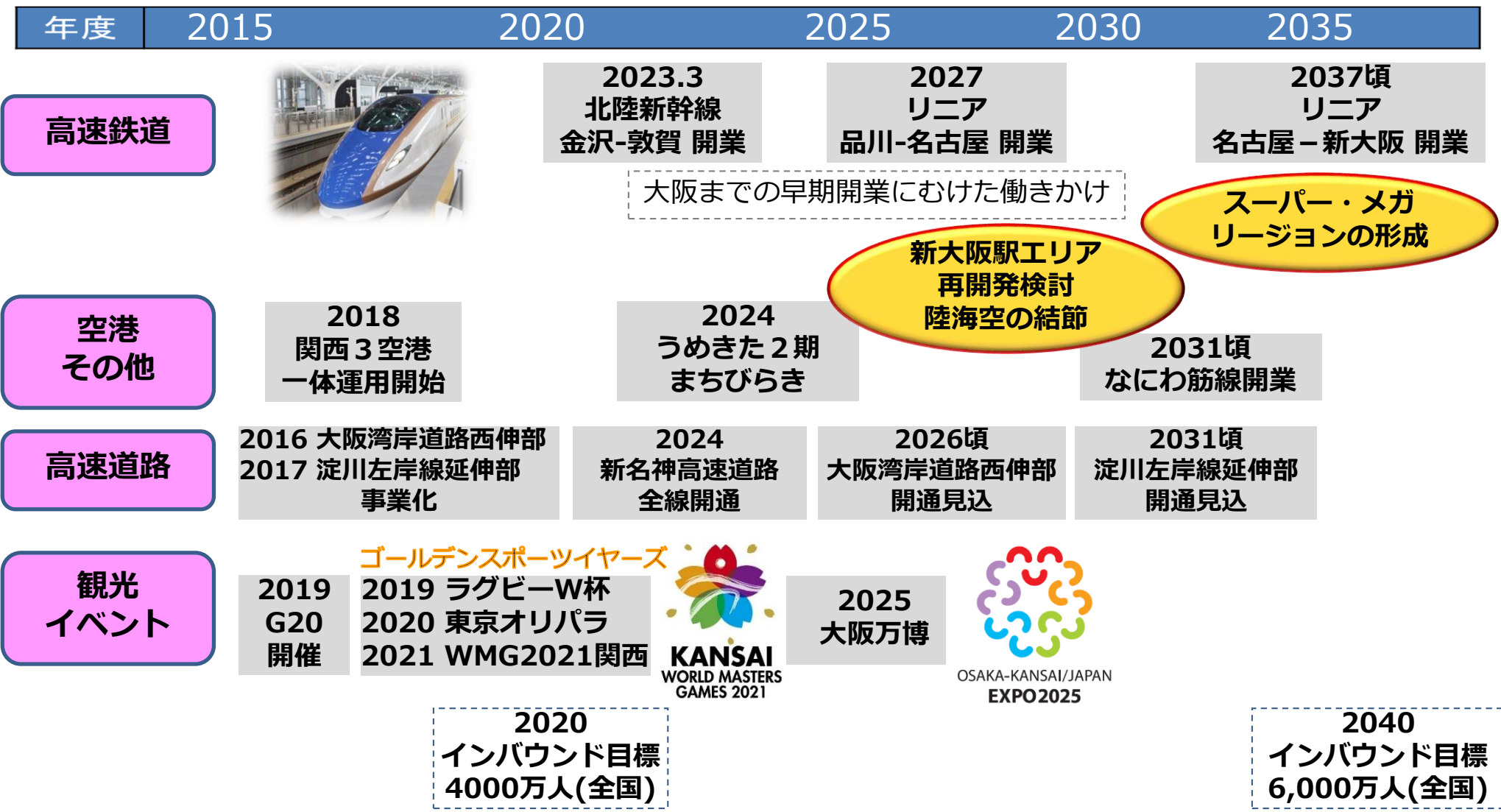
一般政府公的固定資本形成の推移(平成8年を100とした割合)



※名目GDPの推移(左グラフ)については、名目GDP国連統計(Global Note)より、米ドルを指数化している。
※一般政府公的固定資本形成の推移(右グラフ)については、諸外国のデータはOECD「National Accounts」、日本のデータは内閣府「2012年度国民経済計算(2005年基準・93SNA)」(確報)による。全て名目値を用いた。なお、英国平成17年の一般政府IG値は、英国核燃料公社(BNFL: British Nuclear Fuels plc)から原子力廃止措置機関(NDA: Nuclear Decommissioning Authority)への債務承継156百万ポンドの影響を除外している。

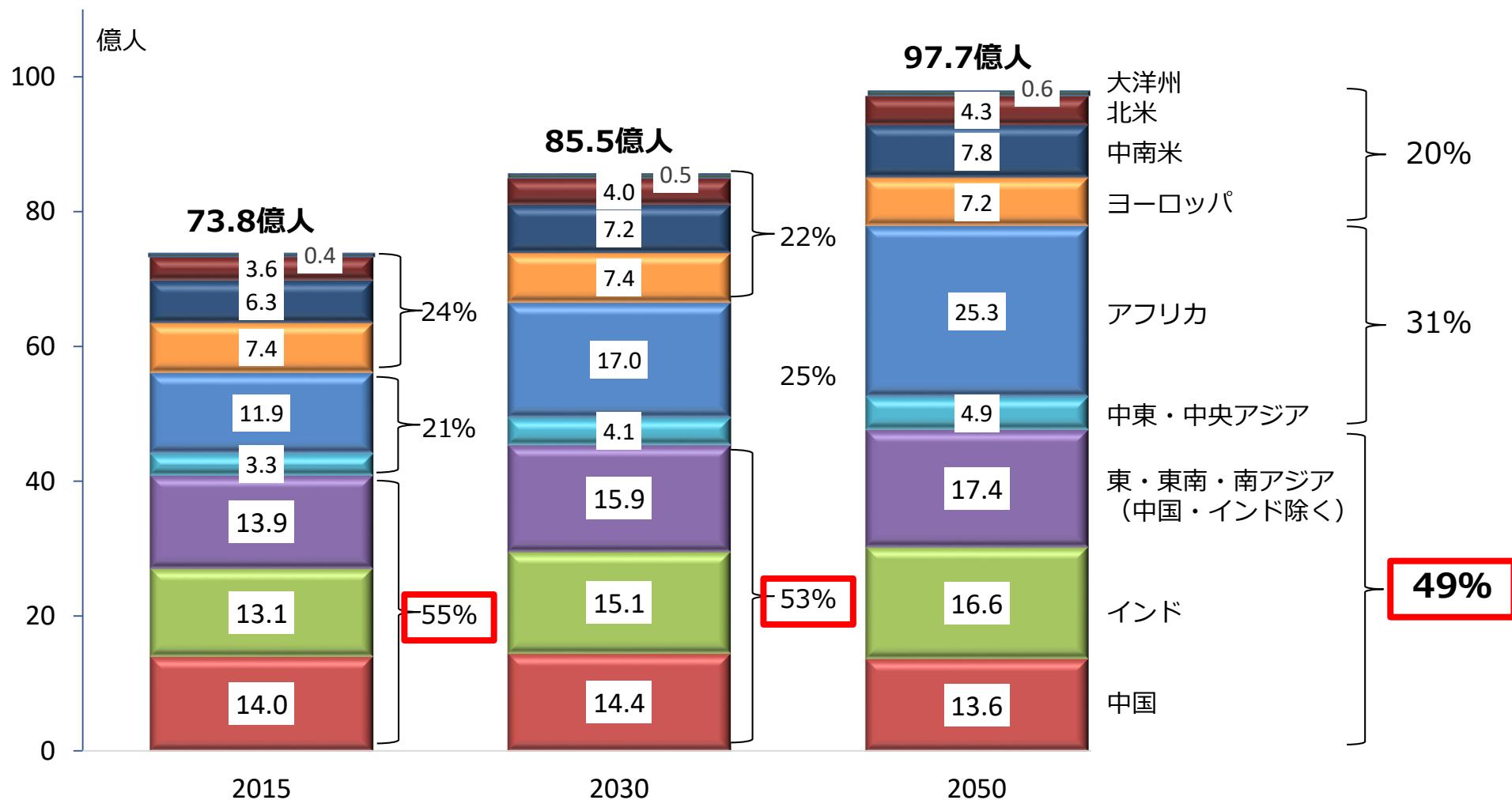
3大インフラ整備はスケジュールイメージが大切

○ 3大インフラはそれぞれ独立したものではなく、一体的に捉え、スケジュール感をもって整備
○ 今後、最も注目すべきは新大阪駅周辺エリア ⇒ スーパー・メガリージョン構想の西の拠点



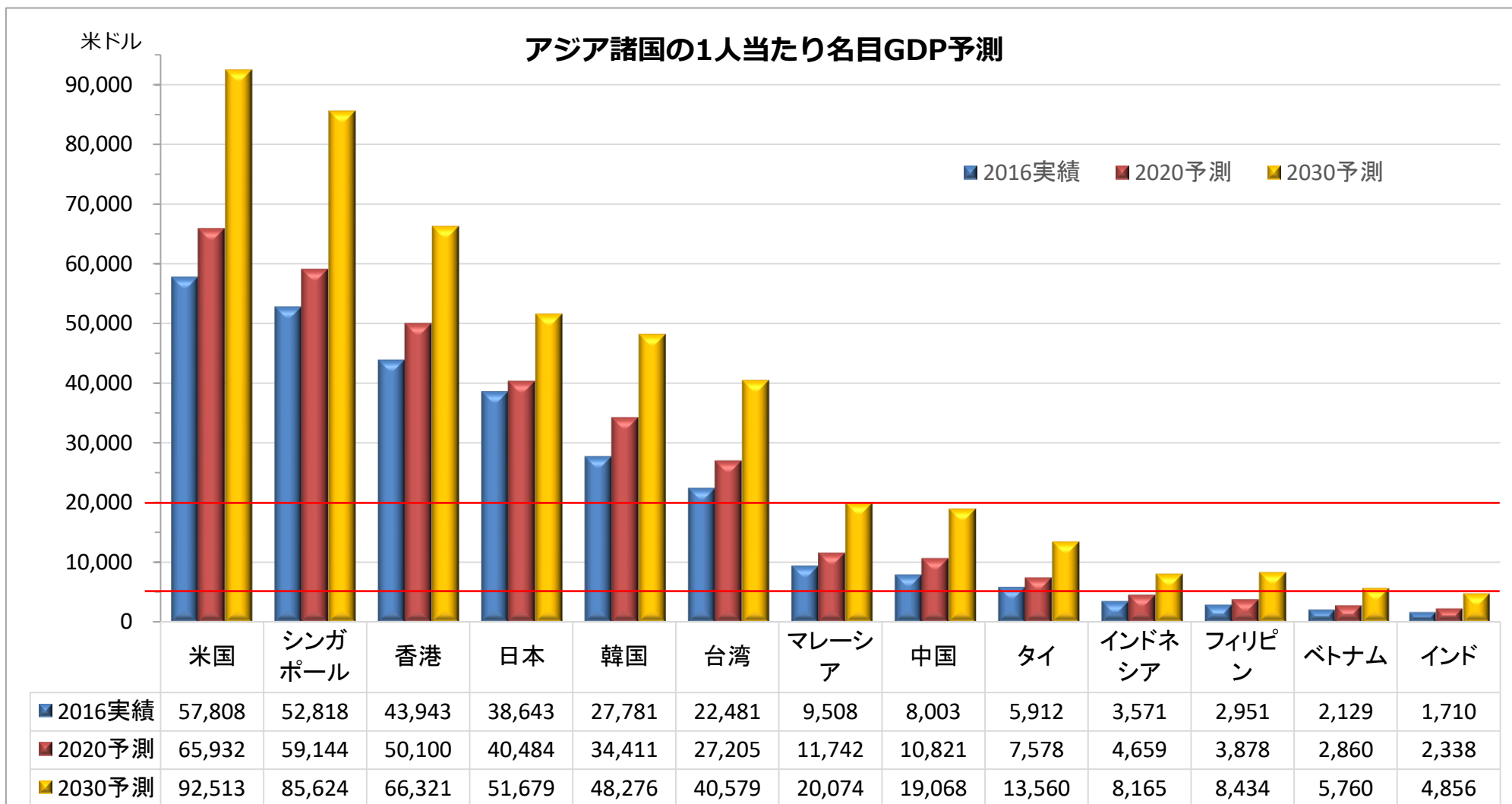
○日本から距離的に近いアジア諸国の人口はインドも含め世界人口の約半分を占める ⇒ **Look West !**

地域別人口予測



アジア諸国の海外旅行人口は今後も増加

- 1人当たりのGDPが5,000ドル超で団体海外旅行が増加し、20,000ドル超で個人海外旅行が増加し始める
- アジア諸国の多くが2030年に向け1人当たりGDPは成長を続けることから、海外旅行ニーズが高まる
中産階級が更に増加することが見込まれる ⇒ **Look West !**



(出典) (公社) 日本経済研究センター『第3回アジア経済中期予測』より関経連が作成

地域別GDPシェア超長期推移

○再びアジアの時代がやってくる ⇒ **Look West !**

○2015年にアジアのGDPシェアが米州と欧州を逆転 ⇒ 2050年には世界GDPの50%超がアジアになる

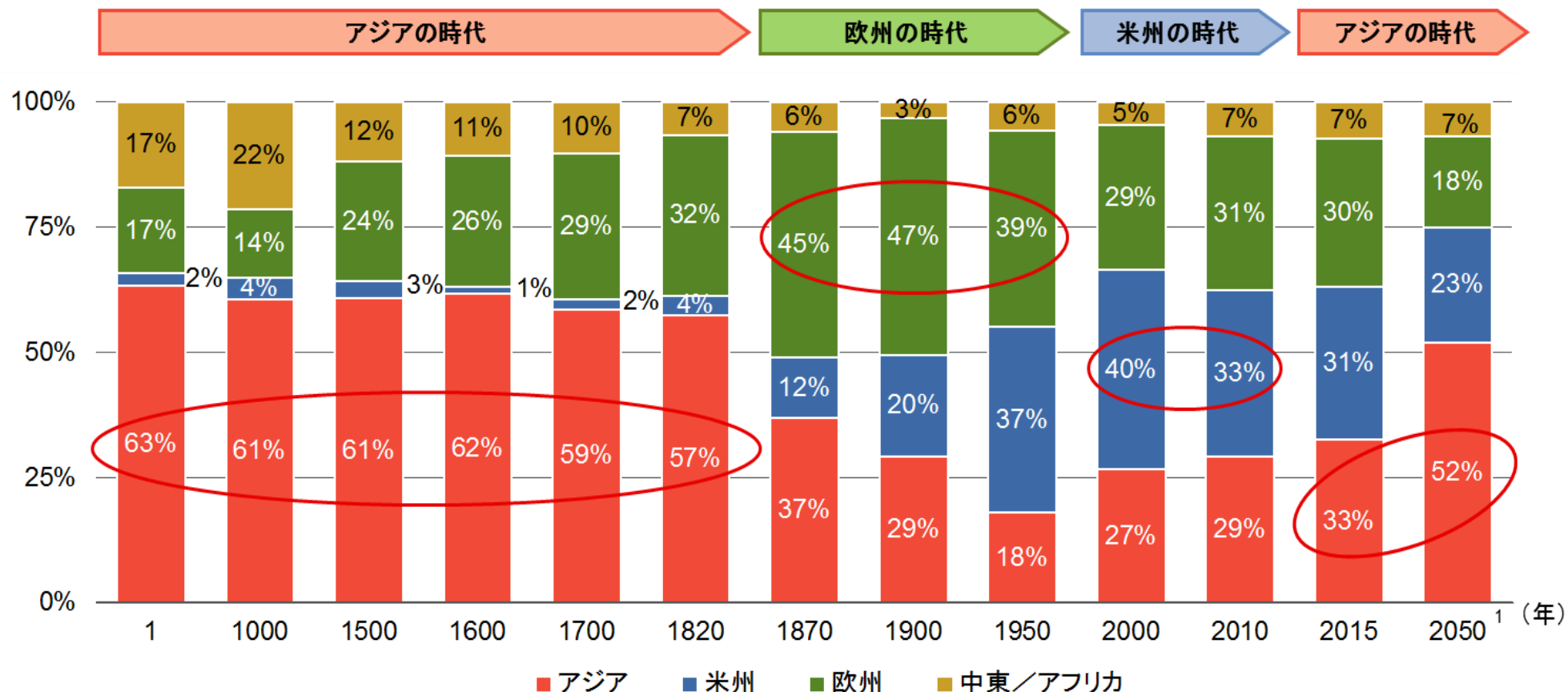
地域別GDPシェア推移

1840-42年 アヘン戦争

1857-59年 セポイの乱

1939-45年 WW II

2008年 金融危機

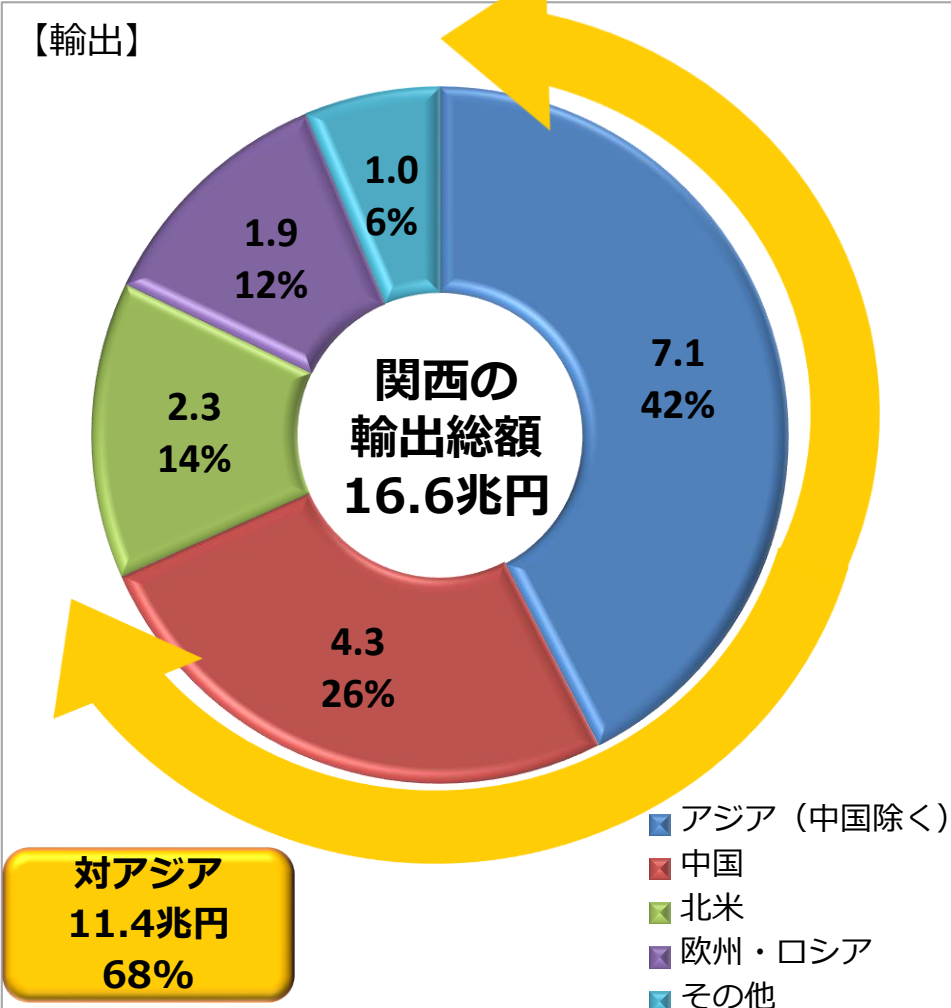


(出典) 西暦1～1950年 : Angus Maddison、2000～2015年 : IMF、2050年 : ADBより三菱UFJ銀行が作成

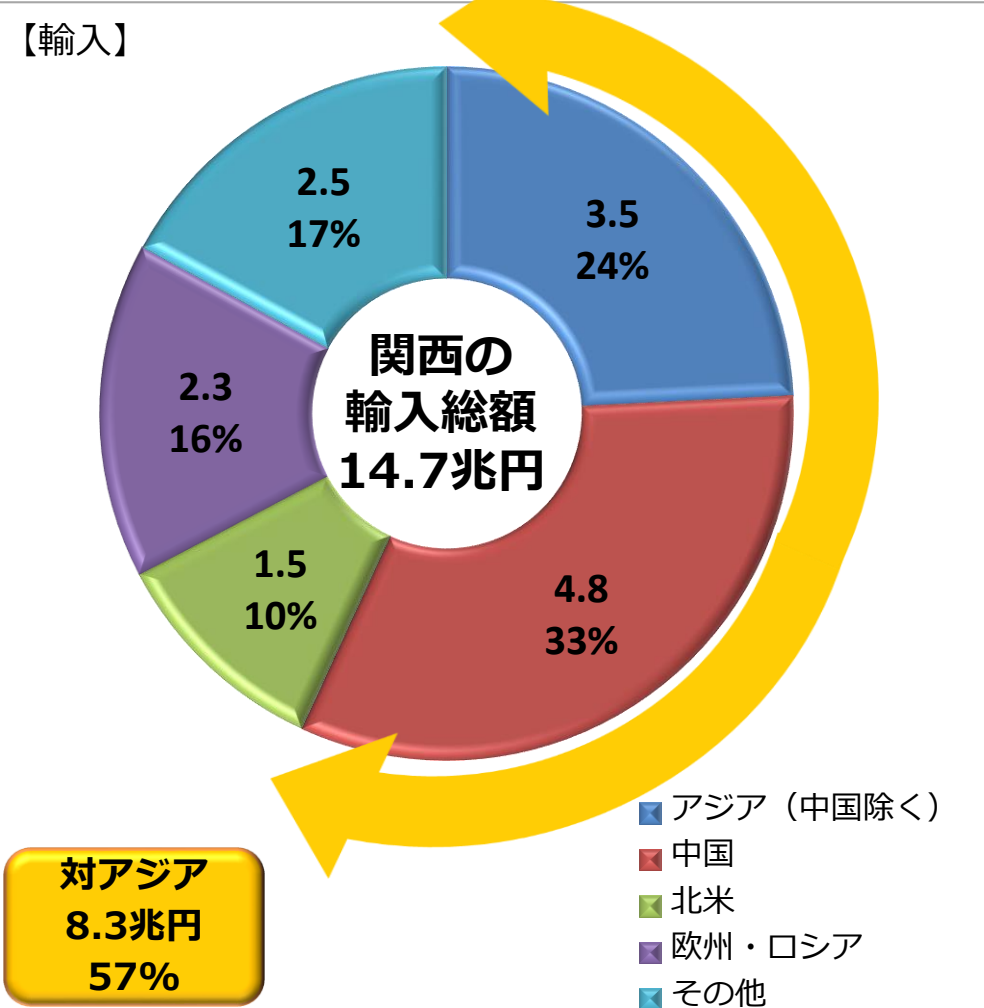
○関西圏における輸出額の約70%、輸入額の約60%が対アジア ⇒ **Look West !**

関西圏の輸出入額の相手地域別構成（2017年：兆円）

【輸出】



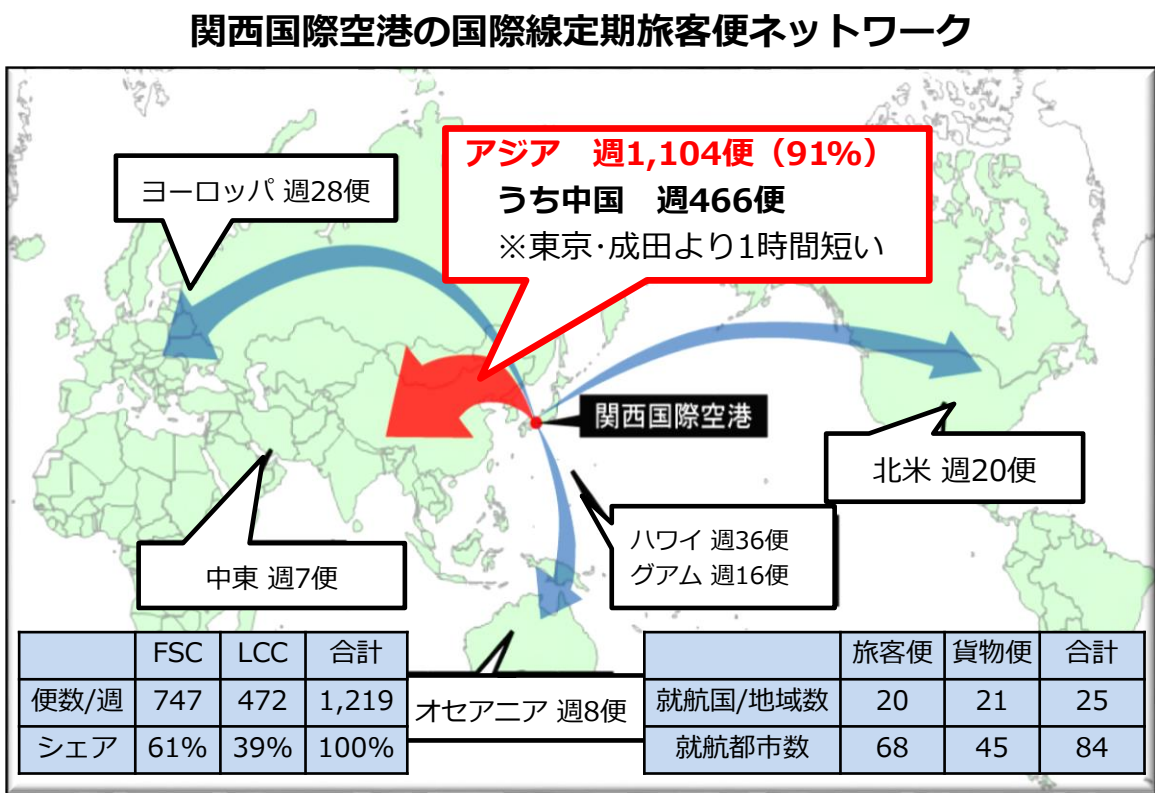
【輸入】



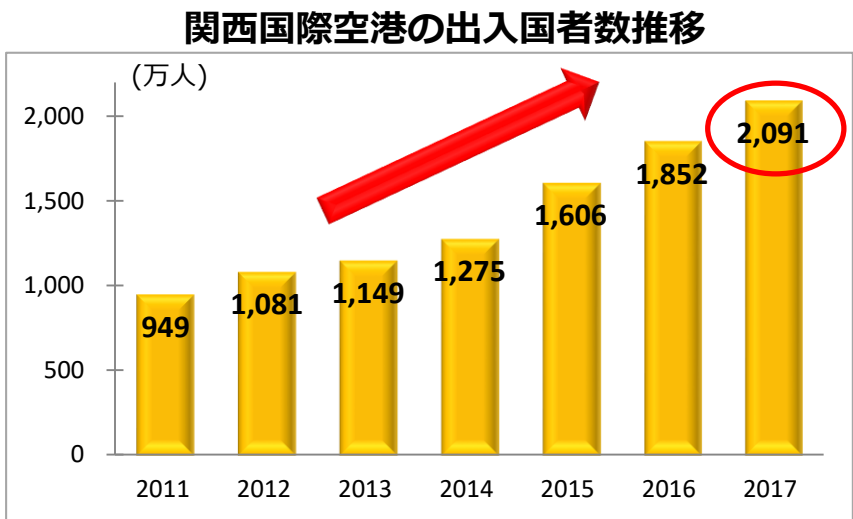
（出典） 大阪税関『貿易統計』より関経連が作成

（注） 関西圏：2府4県（滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県）

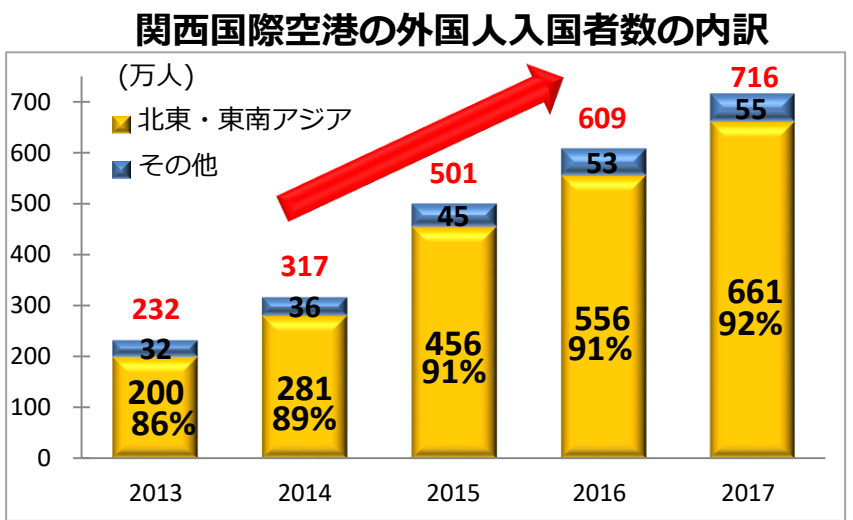
○完全24時間空港である関西国際空港の利用者はここ数年で急増している
○国際線の約9割がアジア方面への路線で、入国外国人の約9割がアジア方面からの利用者 ⇒ **Look West !**



(出典) 関西国際空港HP『20178年夏期就航スケジュール』より関経連が作成



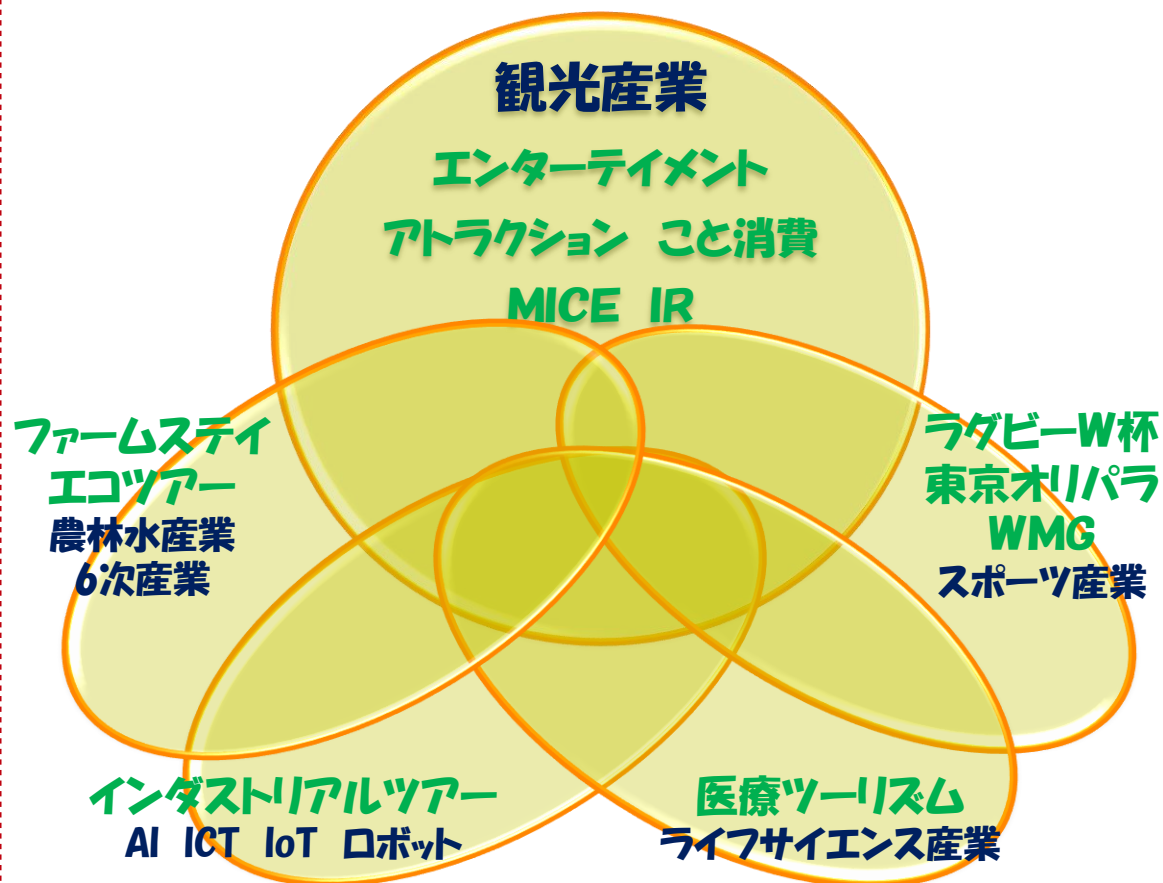
(出典) 法務省『出入国管理統計』より関経連が作成



(出典) 法務省『出入国管理統計』より関経連が作成

- アジアとの対流強化（サービス・コンテンツ・コトの提供、訪日客・人材・FDI（海外直接投資）の取り込み
- 教育環境・子育て、生活環境の更なる整備と効果的な発信も不可欠 ⇒ 生活拠点としても

Golden Five Circle



サービス
コンテンツ
コト(体験)

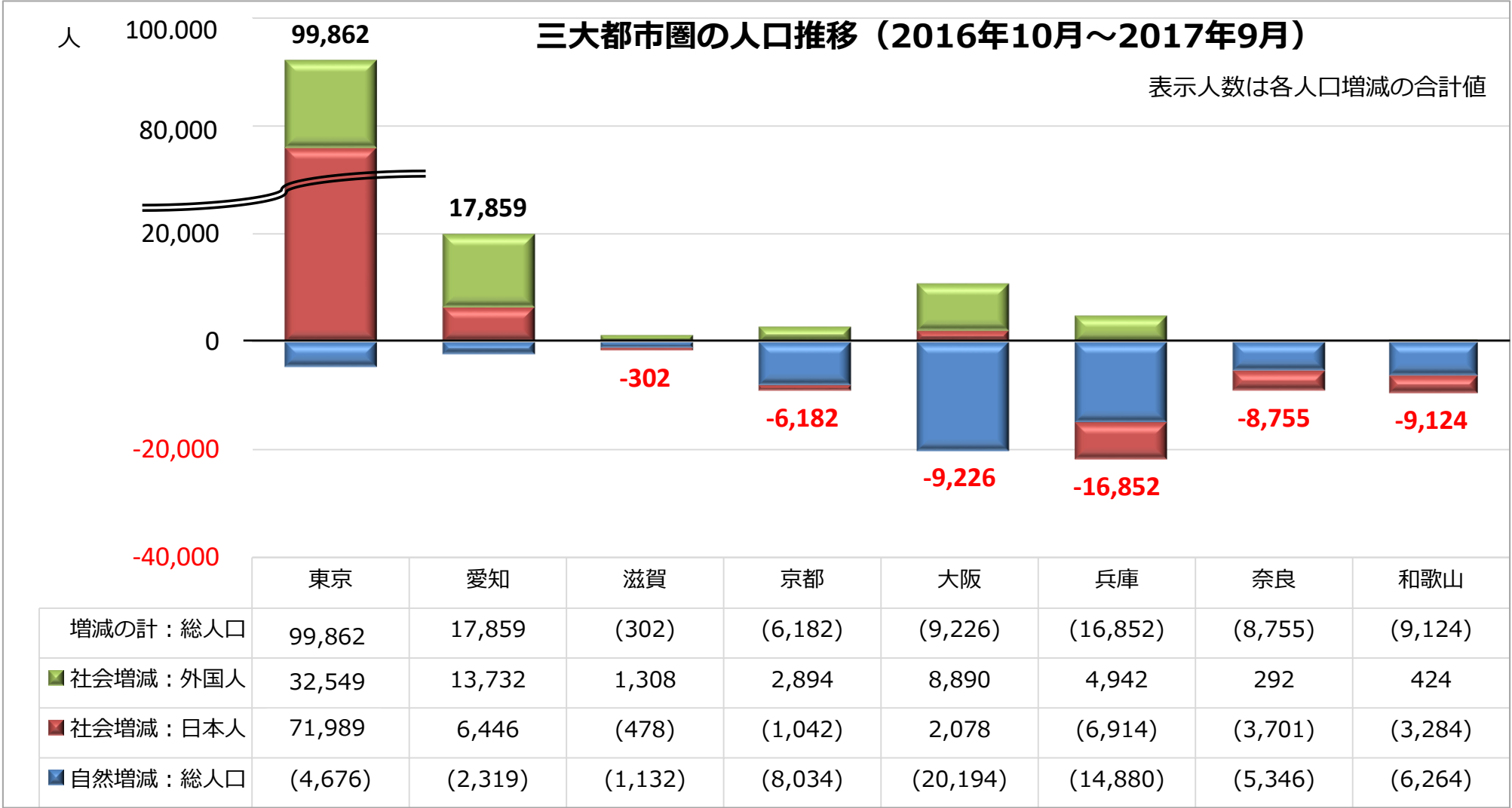
訪日客
海外人材

FDI
(海外直接投資)

ア
ジ
ア

人口集中、注目すべきは社会増減

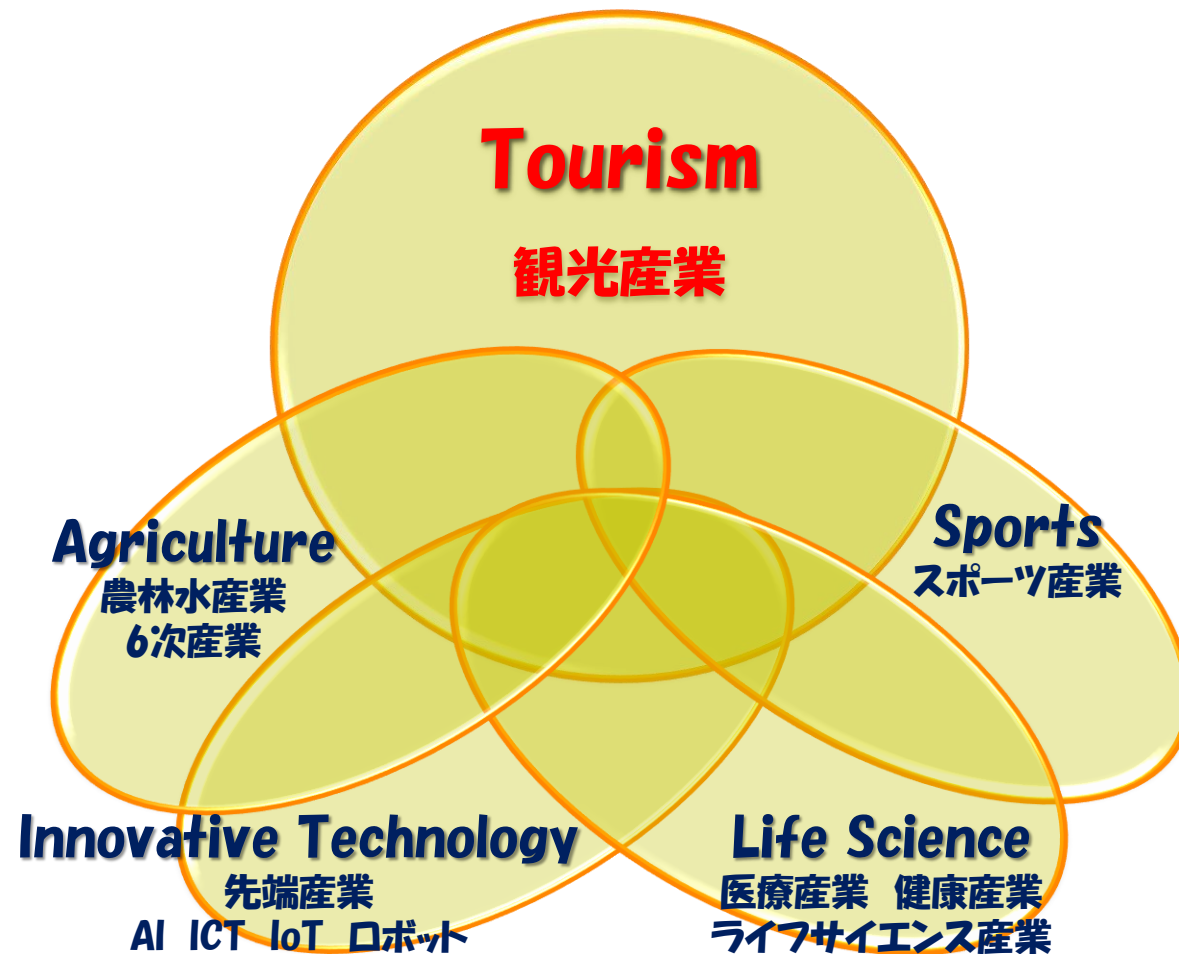
- 関西 2 府 4 県は全府県が総人口が減少。一方、外国人は相応に増加し人口減少の一部を補填
- 東京、愛知は日本人の社会増（赤）に加え、外国人の社会増（緑）も大きい



（出典）総務省『人口推計2017』より関経連が作成

○ Golden Five Circle とそれを支える「3大インフラ」の有機적이つ一体的な整備

Golden Five Circle



3大インフラ

